

教育子ども委員会 説明資料

令和4年3月15日

教育委員会

目 次

	頁
1. 図書の購入について	・・・ 1
2. 電子書籍について	・・・ 1
3. 中学生による陸前高田市との交流10周年記念事業について	・・・ 2
4. 博物館の配置図及び前庭の地下埋設物について	・・・ 6
5. 博物館東館の概要について	・・・ 7
6. 国指定重要文化財「豊臣家文書」について	・・・ 8
7. 不登校児童生徒について	・・・ 9
8. 学校の福祉的機能の充実について	・・・ 10
9. 学校トイレにおける生理用品の配置に係るモデル実施について	・・・ 12
10. 学校司書について	・・・ 14
11. 小学校給食調理業務委託について	・・・ 15
12. 卒業証書入れの負担について	・・・ 18
13. 1人1台端末に導入しているソフトウェアについて	・・・ 19
14. 1人1台端末のソフトウェアの選定について	・・・ 20
15. 高坂小学校としまだ小学校の統合に係る経過について	・・・ 22
16. 若宮高等特別支援学校の専門コースについて	・・・ 23
17. 特別支援学校における教室不足について	・・・ 24
18. 特別支援学校における運動場面積について	・・・ 25

1 図書の購入について

(単位：千円、冊、点)

区 分	元年度	2年度
図書購入費	147,448	140,075
購入冊数	106,926	101,559
タイトル数	19,540	17,204

(注1) 図書購入費は予算を掲げた。

(注2) タイトル数は雑誌・洋書を除いた数値を掲げた。

2 電子書籍について

(単位：点)

区 分	タイトル数	ライセンス数
制限なし	10,172	10,391
制限あり	3,640	3,745
計	13,812	14,136

(注1) 令和4年1月末日現在の数値を掲げた。

(注2) ライセンス数とは、各タイトルの使用許諾数の合計である。

(注3) 制限とは、貸出期間や貸出回数の上限である。

3 中学生による陸前高田市との交流10周年記念事業について

(1) 事前準備の予定

区 分	内 容
4月10日	○本市のセンパイによる企画会議を開催し、以下の企画内容について検討 ・両市のセンパイの交流内容 ・両市の中学生及びセンパイの交流内容 ・陸前高田市内での活動内容 ・宮城県内の防災学習施設見学内容 等
4月中下旬	○本市のセンパイから陸前高田市のセンパイへ企画内容を提案
4月24日	○本市のセンパイによる企画会議を開催し、陸前高田市のセンパイの意見を踏まえ、企画内容を決定
7月23日	○本市の中学生及びセンパイが参加する事前学習会を開催 ○東山動植物園にて奇跡の一本松の後継樹について学習
8月19日～ 8月21日	○陸前高田市を訪問

(注) センパイとは、令和2年度までの中学生による陸前高田市との交流事業参加者をいう。

(2) 行程の予定

区 分	時 間	行 程
8月19日	8時30分	名古屋駅 発
	12時00分	仙台駅 着
	13時30分～	宮城県内の防災学習施設見学 (センパイが企画に参画)
	19時00分	宿泊施設 着
8月20日	8時00分	宿泊施設 発
	8時30分～ 10時30分	陸前高田市内で活動 ・両市のセンパイの交流 (センパイが企画に参画)
	11時00分～ 12時00分	・陸前高田市長の講話
	13時00分～ 15時30分	・両市の中学生及びセンパイの交流 (センパイが企画に参画)
	16時00分～ 17時30分	・両市の中学生及びセンパイによる ボランティア活動
	18時30分	宿泊施設 着
	8時00分	宿泊施設 発
8月21日	8時30分～	陸前高田市内で活動 (センパイが企画に参画)
	13時30分～	陸前高田市 発
	16時00分	仙台駅 発
	20時30分	名古屋駅 着

(注) センパイとは、令和2年度までの中学生による陸前高田市との交流事業参加者をいう。

(3) 年代別参加者数

ア 名古屋市

(単位：歳、人)

区 分	年 齢	交流10周年 記念事業	中学生による 交流事業
平成25年度	23	4	36
平成26年度	22	16	37
平成27年度	21	11	37
平成28年度	20	11	36
平成29年度	19	13	36
平成30年度	18	11	38
令和元年度	17	26	36
令和2年度	16	29	36
計		121	292

(注) 年齢は、令和4年度末の年齢を掲げた。

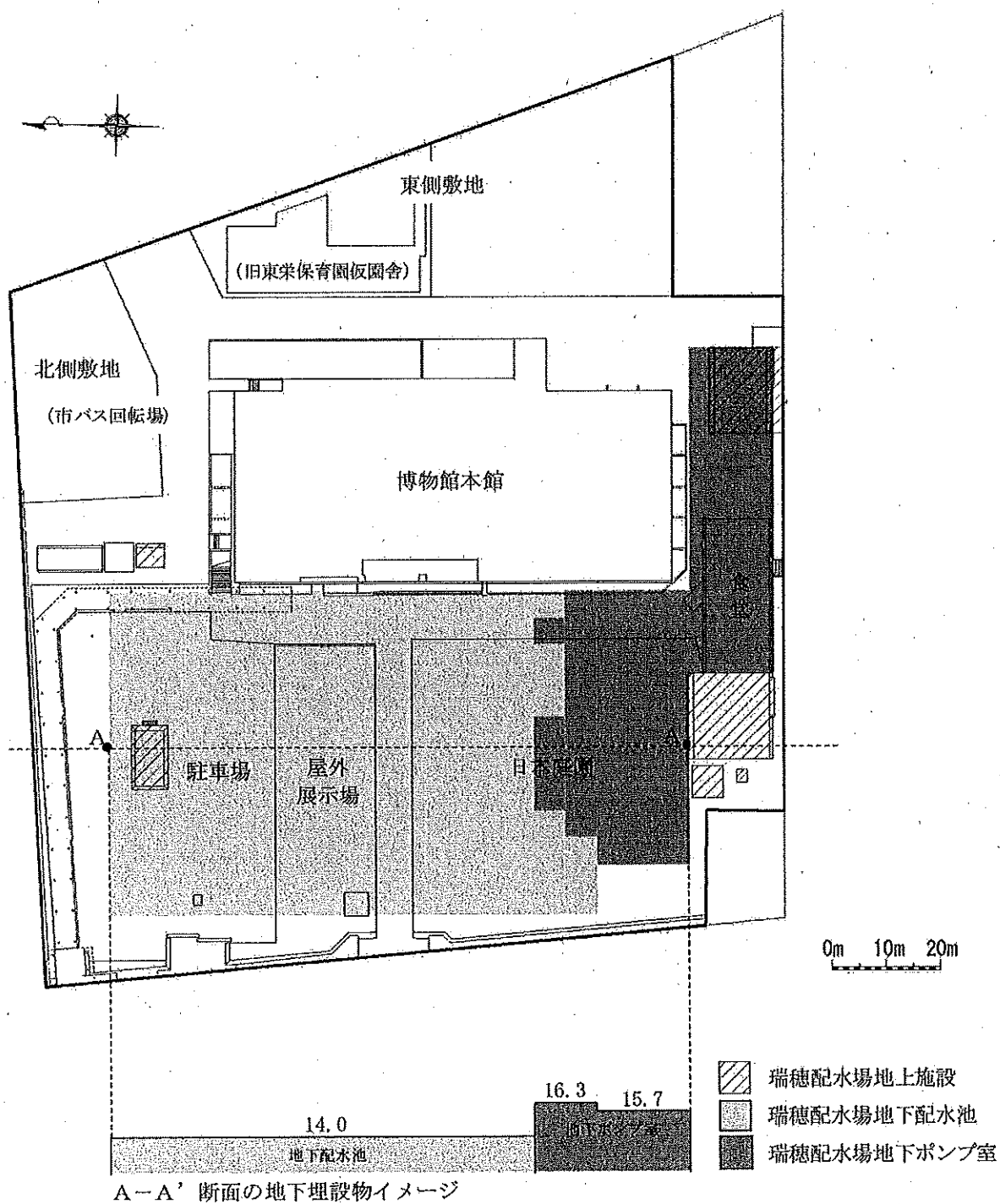
イ 陸前高田市

(単位：歳、人)

区 分	年 齢	交流１０周年 記念事業	中学生による 交流事業
平成２５年度	２３	—	２０
平成２６年度	２２	２	２０
平成２７年度	２１	—	２０
平成２８年度	２０	—	２０
平成２９年度	１９	５	２０
平成３０年度	１８	４	２０
令和元年度	１７	６	２０
令和２年度	訪 問 中 止		
計		１７	１４０

(注) 年齢は、令和４年度末の年齢を掲げた。

4 博物館の配置図及び前庭の地下埋設物について



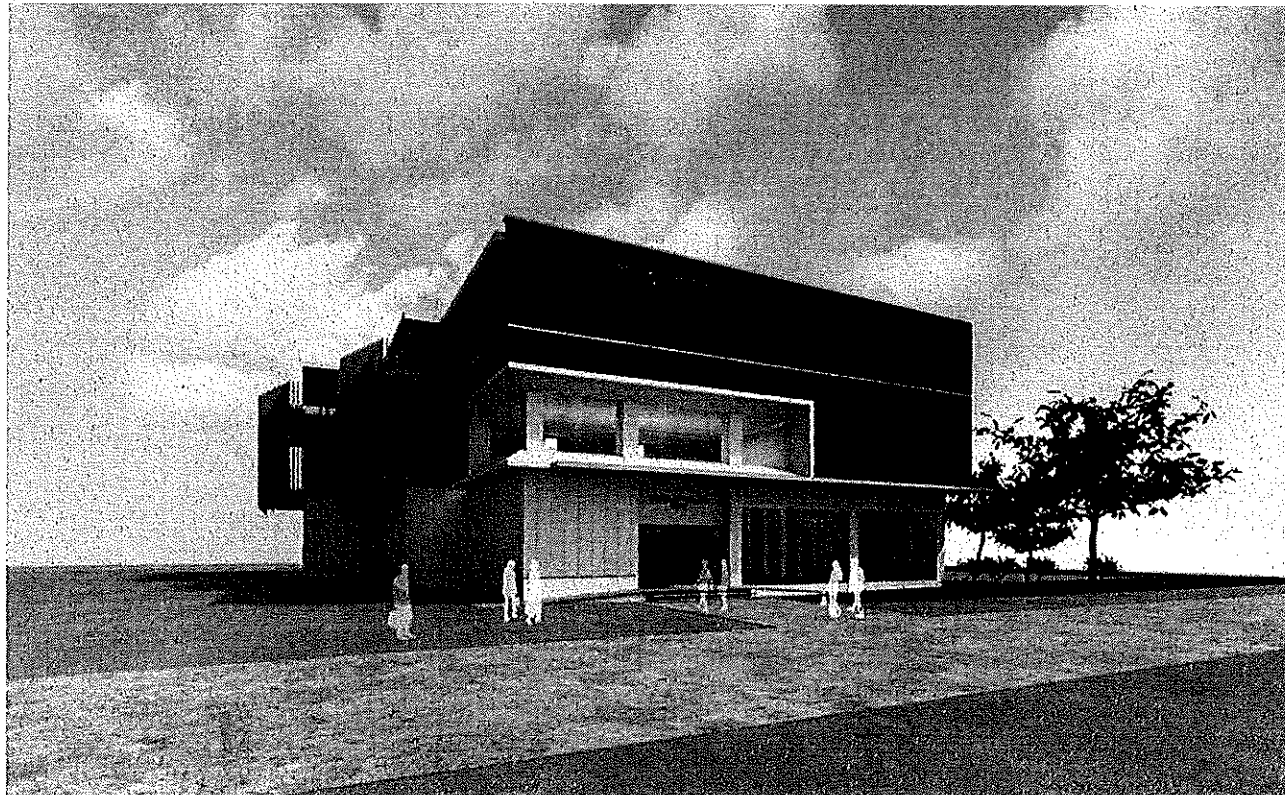
(注) A-A' 断面の地下埋設物イメージの数値は海拔（名古屋港基準面）を示す。

5 博物館東館の概要について

(1) 概要

区 分	内 容
構 造	鉄骨造 3階建て
建築面積	約 1,300㎡
延床面積	約 4,000㎡
用 途	1階 カフェ、キッズスペース、ギャラリー、機械室 2階 ギャラリー 3階 収蔵庫

(2) 外観パース図（北東地上面より）



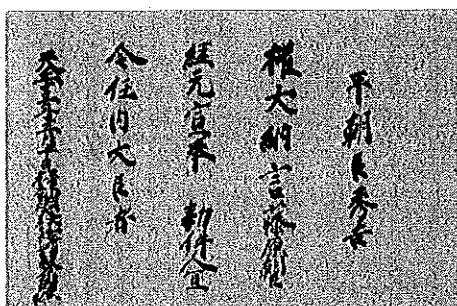
6 国指定重要文化財「豊臣家文書」について

(1) 概要

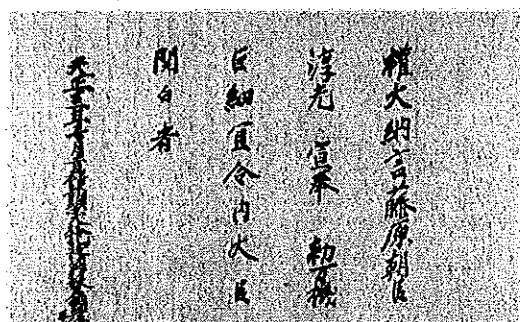
区 分	内 容
由 来 等	豊臣秀吉を関白とする任命書及び豊臣家関係者の自筆の手紙など、豊臣家が栄華を極める時期の資料群で、秀吉の妻・高台院（ねね）の実家である足守藩（現在の岡山県岡山市）の木下家に伝来した。令和元年に国指定重要文化財に指定された。
点 数	67点
価 格	330,000千円

(2) 主な資料の写真

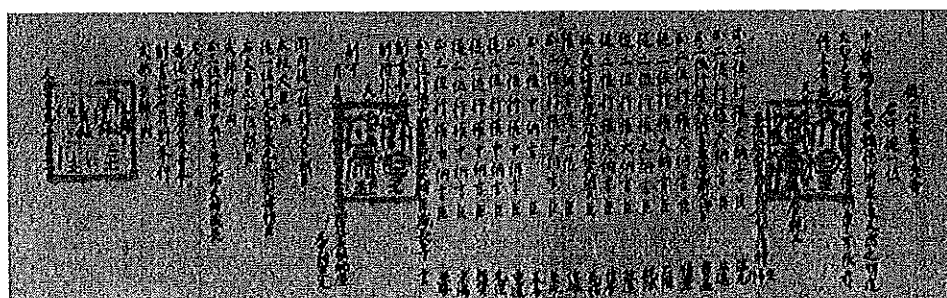
ア 宣旨 内大臣 天正13年3月10日付



イ 宣旨 関白 天正13年7月11日付



ウ 位記 従一位 天正13年7月11日付



7 不登校児童生徒について

(単位：人)

区 分	元年度	2年度
無気力・不安	8 2 9	1, 5 8 8
いじめを除く友人関係をめぐる問題	5 8 6	3 9 5
生活のリズムの乱れ、あそび、非行	1 1 2	3 9 1
親子の関わり方	2 1 4	2 0 3
学業の不振	3 8 0	1 9 3
入学、転編入学、進級時の不適応	1 5 0	8 4
家庭の生活環境の急激な変化	9 3	7 0
教職員との関係をめぐる問題	7 4	6 0
家庭内の不和	6 5	5 5
学校の決まり等をめぐる問題	5 3	5 2
進路に係る不安	4 9	1 9
いじめ	8	6
クラブ活動、部活動等への不適応	1 7	4
該当なし	3 0 7	1 1 0
計	2, 9 3 7	3, 2 3 0

(注) 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査における不登校の主要因で計上した。

8 学校の福祉的機能の充実について

(1) 人員

(単位：人)

区 分	3年度	4年度	差 引
学校を安心安全な居場所へ	-	1 4 7	1 4 7
校内の教室以外の居場所づくりに係る教員	-	3 0	3 0
新しい学校づくり推進部に係る職員	-	3 2	3 2
学校福祉専門員	-	3 0	3 0
小学校4年生での35人学級先行実施に係る教員	-	5 5	5 5
日本語指導が必要な子どもの支援	4 9	5 2	3
母語学習協力員・母語指導補助員等	4 9	5 2	3
針路の応援	3 0	6 0	3 0
キャリアナビゲーター	3 0	6 0	3 0
障害のある子ども、医療的ケアが必要な子どもへの支援	3 5 6	3 7 7	2 1
通級指導教室担当教員	7 2	7 7	5
発達障害対応支援講師	6 5	7 0	5
学校生活介助アシスタント・介護ヘルパー	1 9 7	2 0 3	6
看護介助員	2 2	2 7	5
計	4 3 5	6 3 6	2 0 1

(注) 令和4年度に増員を予定している事項を掲げた。

(2) 事業費

(単位：千円)

区 分	3 年度	4 年度	差 引
教職員の働き方改革プラン策定に向けた調査	-	10,000	10,000
なごや子ども応援委員会相談等対応記録システムの構築	-	25,453	25,453
いじめ防止対策の調査検証	-	26,000	26,000
ウェブ版学校生活アンケートの実施	86,837	87,844	1,007
24 時間 S N S 相談等の実施	17,131	125,153	108,022
校内の教室以外の居場所づくり	-	73,803	73,803
子ども適応相談センター 第3サテライト整備の設計	-	6,000	6,000
民間オンライン学習プログラム 導入による学習支援	-	26,250	26,250
学校トイレにおける生理用品の 配置	-	7,500	7,500
就学援助所得基準額等の変更	1,896,658	2,163,482	266,824
学校施設のバリアフリー化	65,000	345,500	280,500
学校トイレの環境改善	3,154,749	3,335,369	180,620
計	5,220,375	6,232,354	1,011,979

(注1) 学校施設のバリアフリー化は、令和3年度は令和2年度2月補正予算額を掲げた。

(注2) 学校トイレの環境改善は、令和3年度は令和2年度2月補正予算額を、令和4年度は令和3年度2月補正予算額を掲げた。

9 学校トイレにおける生理用品の配置に係るモデル実施について

(1) 実施期間

3年11月1日～11月30日

(2) 使用状況

(単位：校、人、個)

区 分	校数	対象人数	使用量
小 学 校	3	3 2 2	3 9
中 学 校	4	1, 0 9 9	9 2 7
高 等 学 校	2	9 0 6	6 5 3
特別支援学校	1	5 4	2 4
計	1 0	2, 3 8 1	1, 6 4 3

(注) 対象人数は、小学校は4年生以上の女子児童数、中学校及び高等学校は全女子生徒数、特別支援学校は小学部4年生以上の女子児童生徒数を掲げた。

(3) 配置場所

(単位：校)

区 分	手洗い場	個室	両方
小 学 校	1	1	1
中 学 校	1	2	1
高 等 学 校	2	—	—
特別支援学校	1	—	—
計	5	3	2

(4) 主な意見

区 分	内 容
児童生徒	・突然、必要となったときに友人に借りなくて済む。 ・保健室へ取りに行かなくてもよい。 ・周りの目があるので個室にあるとよい。
教 員	・保健室へ生理用品を取りに来なくてもよいため、今まで悩みを聞いたり、声をかけたりすることが出来ていたのに、その機会が減ってしまう。 ・トイレに生理用品があればいつ必要になっても安心だと感じる一方で、外出時に自分で用意する習慣が薄れるのではないかと心配である。 ・「貧困」という言葉を出すと「貧困と思われたくない」と使用をためらう可能性があったが、今回、「誰でも使用してよい」としたのでよかった。

10 学校司書について

(1) 予算額及び配置人数の推移

(単位：千円、人)

区 分	2年度	3年度	4年度
予 算 額	81,959	90,072	100,355
配置人数	70	75	80

(2) 活動内容

- 館内閲覧・貸出業務・児童生徒の図書館利用指導の支援
- 学校図書館の蔵書管理・環境整備・広報活動
- 学校図書館を活用した授業への支援・学習資料の収集
- 読書推進活動の企画・実施（読み聞かせ等）
- 図書委員会の支援
- 学校図書館での居場所づくり

1 1 小学校給食調理業務委託について

(1) 委託事業者の本社所在地

ア 愛知県内

区 分	本社所在地
株式会社トモ愛知	知多市
株式会社松浦商店	名古屋市
株式会社ミツオ	名古屋市
栄屋食品株式会社	あま市
日本ゼネラルフード株式会社	名古屋市
メーキュー株式会社	名古屋市

(注) 五十音順で掲げた。

イ 愛知県外

区 分	本社所在地
一富士フードサービス株式会社	大阪府大阪市
株式会社魚国総本社	大阪府大阪市
株式会社トモ	三重県四日市市
シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社	東京都調布市
葉隠勇進株式会社	東京都港区
ハーベストネクスト株式会社	神奈川県横浜市
フジ産業株式会社	東京都港区

(注) 五十音順で掲げた。

(2) プロポーザル方式による事業者選定における評価基準

評価項目		評価基準	配点
会社概要	企業の安定性	業務を履行する上で適切な財政基盤を有し、広範囲にわたって確実な取引先を有し、業務遂行に十分な従業員を有しているか。また、従業員の適正な労働環境の構築の取組み、考え方について、具体的な給与水準等も見て評価する。	15点
	履行保証	不測の事態により、業務の履行が継続できなくなった場合における業務代行保証体制が十分であるか評価する。	10点
	事業の実績	学校給食調理業務での受託実績(とりわけ単独調理場における実績)及び受託校における特徴、実績、自己評価について評価する。	10点
学校・児童・保護者への協力、サービスの向上	食育の推進及び児童・教職員へのサービス向上	学校給食が教育の一環として実施されている事を理解した上で、学校並びに栄養教諭と連携し、児童への食育推進に貢献できる提案であるか、また、児童・教職員へのサービス向上につながる提案であるかを評価する。	5点
	児童との交流	給食の受け渡しや返却時の声かけなど、学校内で調理従事者から児童等へのコミュニケーションを図るための取組みを評価する。	5点
	保護者の安心感の向上	調理業務等にて、会社として保護者に安心感や信頼感をアピール、発信する内容を評価する。	10点
会社の支援体制	人材の支援体制	業務を安定的かつ衛生的に実施するため、委託業務開始時や繁忙期、緊急時などにおける業務履行場所への人材の支援体制を評価する。	15点
	巡回指導等の体制	業務履行場所に対する、本社、支店等の人材による定期的な業務履行状況の確認や衛生の検査、現場教育等の巡回指導の体制を評価する。	10点

評価項目		評価基準	配点
衛生管理の状況	H A C C P の考え方を取り入れた衛生管理（一般健康管理を含む）	国の衛生管理基準等に基づき、衛生管理計画書を作成し、計画及びマニュアルに沿った調理業務が実施され、各工程の確認・点検・記録・検証を実施しているかを評価する。（一般健康管理を含む）	15点
	研修体制及び具体的な研修計画	国の衛生管理基準や本市衛生の手引き等を、パートを含め、従事者一人一人が十分に理解するための研修講師等の体制や具体的な研修計画及び効果測定について評価する。	15点
	事故の抑止、発生時の対応、継続的改善	異物混入や調理事故等の発生の抑止策について評価する。また、内部監査等で見つかった課題への改善活動の継続的な実施、その結果を評価、検証するための仕組みやルールについて評価する。	10点
業務履行能力	業務開始準備	給食開始までの業務準備スケジュール、内容について評価する。	15点
	アレルギー対応	本市アレルギー対応の手引きに沿った前提で、保護者の安心を得るため、さらなる安心や安全が提供できる対応が提案されているかを評価する。	10点
人的体制	責任者の配置（責任者の役割）	日々の業務を円滑に遂行するために、責任者が果たすべき役割、取組みについて評価する。	10点
	責任者の配置（配置予定責任者調書）	配置予定の業務責任者、業務責任代理者についての、責任者又は責任者に準ずる立場としての経験やこれまでの業務実績等を評価する。	15点
	調理従事者の確保等	調理従事者の確保（計画も含む）、欠員が生じた場合の対応、代替要員の確保や連絡体制など、安定的な運営のための方法について評価する。	10点
	調理従事者の配置体制	丁寧で安心感のある調理を行うため、調理従事者の配置人数や資格保有者数、1日の勤務の割振りの状況等について評価する。	15点
見積額		提案内容に対して見積金額は適切か。	25点
合計			220点

1 2 卒業証書入れの負担について

(単位：校)

区 分	小学校	中学校
公 費	1 4 4	8 4
P T A	1 0 8	2 3
学区連絡協議会	7	1
女性会	1	—
同窓会	—	1
保護者	1	1
計	2 6 1	1 1 0

(注1) 令和2年度の実績を掲げた。

(注2) P T Aと学区連絡協議会が合同で負担した小学校1校はP T Aに計上した。

(注3) 卒業アルバムに卒業証書を入れられるものは保護者負担に計上した。

1.3 1人1台端末に導入しているソフトウェアについて

(1) 主な導入ソフトウェア

区 分	ソフトウェア名
協働学習・探究学習支援ツール	ロイロノート・スクール
	SKYMENU Cloud
コミュニケーションツール	スクールライフノート
AIドリル	Qubena
クリエイティブツール	デイジーピックス
	効果検証・教材投稿アプリケーション R-PDCA/ラボ
バックアップソフト	YEC On Data
管理用ソフト	SKYSEA Client View

(2) 導入経費

(単位：年、千円)

区 分	契約年数	契約金額
ライセンス契約	5	9,552,248

(注) 先行導入校37校分は、端末のリース契約と同時に調達しているため、含めていない。

1 4 1 人 1 台端末のソフトウェアの選定について

(1) 選定過程

区 分	概 要
令和元年 9 月	○矢田小学校において、個別化・協働化・プロジェクト化を推進するため、端末 1 6 0 台及び関連ソフトウェアを導入
1 2 月	○文部科学省が、令和 5 年度までに 1 人 1 台端末を配備する方針について表明
令和 2 年 1 ～ 3 月	○先行的に配備する端末のソフトウェアを選定
4 月	○文部科学省が、1 人 1 台端末配備を加速する方針を表明
7 ～ 8 月	○有識者に、1 人 1 台端末を実現する上で導入すべきソフトウェアについて意見を聴取 ○有識者からの意見を踏まえ、種類別にソフトウェアの候補をリストアップ ○矢田小学校における活用状況や、他都市における導入状況を参考に、ソフトウェアを選定

(2) 有識者への意見聴取

区 分	内 容
教育委員会が 提示した課題	○個別最適化された学びの実現 ○主体的・対話的で深い学びの実現 ○I C T 活用の日常化
有識者の意見	○A I ドリルなどを活用して理解度に応じた問題を出すことで、子どもたちのやる気を引き出す効果があると考えられる ○端末を活用した意見の発信・共有・協働作業を促進することが重要である ○教員・児童生徒などの間でコミュニケーションツールを活用することにより、I C T 活用の日常化を図ることができる ○自分の作品を作り、それを発信していくという過程においては、クリエイティブツールも必要である

(3) 廣澤前副市長の貢献内容

廣澤前副市長コメント

○導入されるソフトウェアについては、教育委員会からその使い方等の説明を受けました。その際、ソフトウェアについて特段ソフトウェア名を挙げて助言をするなどということはございませんでした。

(4) 市長特別秘書が出席した打合せ等

日 付	内 容	場 所	出席者
令和元年 10月10日	1人1台端末のインターネットへの接続方法について情報共有	教育センター	市長特別秘書、教育委員会職員
12月23日	文部科学省説明会	文部科学省 (東京都千代田区)	市長特別秘書、教育委員会職員
令和2年 1月17日	文部科学省 学校ICT活用フォーラム	三田共用会議所 (東京都港区)	市長、市長特別秘書、教育委員会職員
2月17日	Apple 名古屋栄視察	Apple 名古屋栄	市長、廣澤副市長、市長特別秘書、教育委員会職員
4月10日	1人1台端末配備の前倒しに関する情報共有	教育センター	市長特別秘書、教育委員会職員
5月14日	1人1台端末配備の前倒しに伴うソフトウェアの導入に関する情報共有	教育センター	市長特別秘書、教育委員会職員
8月6日	導入予定のソフトウェアに関する市長説明	市長室	市長、市長特別秘書、教育委員会職員

1 5 高坂小学校としまだ小学校の統合に係る経過について

区 分	時 期
STEP 1 個別プラン作成	平成31年4月～令和2年12月 ○説明会等の回数 ・高坂小学校関係者 8回 ・しまだ小学校関係者 8回
STEP 2 審議会への諮問・答申	令和2年12月～令和3年7月 ○審議会の日程 ・令和2年12月14日 諮問、審議 ・令和3年 1月14日 現地調査 ・令和3年 2月 5日 審議 ・令和3年 4月15日 審議 ・令和3年 5月25日 審議 ・令和3年 6月17日 審議 ・令和3年 7月16日 審議、答申 ○説明会等の回数 ・高坂小学校関係者 1回 ・しまだ小学校関係者 1回
STEP 3 保護者・地域への説明・協議	令和3年7月～令和4年2月 ○説明会等の回数 ・高坂小学校関係者 5回 ・しまだ小学校関係者 5回
STEP 4 統合等の決定	令和4年2月

(注) STEPとは、「ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画」(平成31年3月策定)において示した取組みの流れをいう。

1 6 若宮高等特別支援学校の専門コースについて

区 分	内 容
ク リ ー ン コ ー ス	建物内の床や窓、水回り等の清掃作業や、清掃に使う器具の使い方・手入れ法を学び、校舎内外において清掃実習を行う。
ス ト ア コ ー ス	商品の流通の仕組み、商品の陳列、販売方法等を学び、商業施設におけるバックヤード業務や接客等の実習を行う。
フ ァ ク ト リ ー コ ー ス	製造業における安全面の配慮、工具の使い方等を学び、工場内における軽作業や工具を用いた組み立て作業等の実習を行う。
フ ー ド コ ー ス	材料の仕入れ、製造、販売までの一連の過程を通して食品の扱いや衛生面の配慮を学び、校内喫茶においてパンの製造販売、接客等の実習を行う。
ホ ー ム コ ー ス	裁縫、ミシン、アイロンなどの被服に関わる技能を学び、小物の製作や衣服の修繕、専用機材を用いたクリーニング等の実習を行う。

17 特別支援学校における教室不足について

(単位：室、学級)

区 分	教室数	学級数	不足数	主な対応状況
西養護学校	33	42	9	仮設校舎に織物室、紙工室を設置 織物室、紙工室、被服室及び学習室を普通教室に転用
南養護学校	40	45	5	教材室を普通教室に転用
南養護学校 (分校)	19	18	—	—
守山養護学校	59	53	—	—
天白養護学校	19	35	16	仮設校舎に普通教室、紙工室、図工美術室、印刷室を設置 紙工室、図工美術室、印刷室、視聴覚室及び教材室を普通教室に転用
計	170	193	30	

(注) 令和4年度における見込みを掲げた。

18 特別支援学校における運動場面積について

(単位：㎡)

区 分	現 状	基 準
西養護学校	1, 4 6 0	3, 6 0 0
南養護学校	3, 0 0 0	4, 3 1 0
南養護学校 (分 校)	6, 0 0 0	2, 4 0 0
守山養護学校	2, 2 4 0	3, 7 7 0
天白養護学校	2, 0 5 0	3, 6 0 0

(注1) 南養護学校(分校)の現状は、宝小学校の運動場面積を掲げた。

(注2) 基準は、令和4年度における児童生徒数見込みを基に算出した数値を掲げた。

